

11/16

# 3回目接種の登場

## 厚労省分科会 来月1日開始了承

対象者	18歳以上。高齢者など重症化リスクが高い人や、医療従事者ら職業上の理由で感染リスクが高い人は特に推奨
接種間隔	2回目終了からおおむね8カ月以上が基本。感染状況などを踏まえ自治体判断で例外的に6カ月も可能
ワクチン	ファイザー製やモデルナ製のmRNAワクチン(当面はファイザー製のみ)。1、2回目と製品が異なってもよい
接種時期場所	12月1日に医療従事者から開始。来年1月に高齢者を中心に一般に拡大。来年9月30日まで 場所は自治体が設けた接種会場など。来年3月をめどに職場接種も実施予定

新型コロナウイルスワクチンの三回目の追加接種について、厚生労働省のワクチン分科会は十五日、十二月一日から全国の自治体で実施することを了承した。当面は米ファイザー製を使い、「一・二回目と異なる製品を二回目に打つ「交差接種」を認める。接種タイミングは「二回目終了からおおむね八カ月以上を基本とするが、感染状況などを踏まえ、六カ月に

短縮する」とも例外的にできるとしている。新型コロナ関連⑩⑪⑫回  
一回の接種を完了した十八歳以上の人(が対象で、二月にまず医療従事者に接種し、「一月から高齢者を中心とした一般に拡大する。接種から時間が経過するとともに感染リスクや重症化リスクが高くなる」とが予防接種法上の「臨時接種」に位置付けられ費用は無料。接種は任意だが、妊婦以外は接種の「努力義務」が課せられる。高齢者など重症化リスクが高い人

や、医療従事者ら職業上の理由で感染リスクが高い人は、特に推薦する。

接種が必要と判断した。使用するワクチンについては、海外の事例や有効性や安全性に関するデータを踏まえ、「一・二回目に打ったワクチンの種類にかわらず、ファイザー製や米モデルナ製のメッセンジャーRNA(mRNA)ワクチンを用いる。ただしモデルナ製は二回目接種の薬事承認を得た後で使用可能になる。英アストラゼネカ製については、さらに検討を進める。

副反応の頻度は「一・二回目と同程度で、異なる製品を使っても目立った変化は

報告されていないが、国内でも接種後に生じた症状や血中の抗体の量調べる調査を行い、結果を公表する方針だ。

接種期間は「〇二一年九月三十日まで。まだ一度も接種していない人も受けられれる。各自治体は今月中下旬から対象者に三回目の接種も始める。

種券を順次送付。受け取った人は、自治体の接種会場などで接種する。来年三月をめどに企業や大学での職場接種も始める。